

PTA あきた

～みんなで育てる 秋田の子ども～



(1)PTAあきた

2016.3.4

No.130

【発行】秋田県PTA連合会
【事務局】秋田市山王中島町1番1号 秋田県生涯学習センター内
TEL(018)864-8975 FAX(018)824-7935
E-mail : pta-akita@helen.ocn.ne.jp
<http://www.pta-akita.com>



扇田小学校(大館市)
山コチンチョコ灯ろうパレード



岩城小学校(由利本荘市)
「かかし作り」



平成27年度
みんなで育てる秋田ふれあい事業から

教育 懇談会



秋田県教育委員会と秋田県PTA連合会との教育懇談会を平成28年1月22日(金)に開催した。県教委からは米田教育長、佐藤義務教育課長、沢屋生涯学習課長と各課員、PTAからは会長、副会長、委員、参与、監事、幹事が出席し、「ICTの利用について」

「統廃合について」の二つのテーマについて意見交換が行われた。

最初に米田教育長からは、委員をされている中教審資料から新しい時代と社会に向けてこれまでの蓄積を踏まえつつ、新しい時代にふさわしい学校の在り方を求めて新たな学校文化を形成していく必要性とグローバル化や情報化が進展する社会の中では、多様な主体が速いスピードで影響し合い、先を見通すことがますます難しくなっていることが話された。技術革新等の影響により、いまの子どもたちの65%は将来今存在していない職業に就くとの予測理論や半数近くの仕事が自動化される可能性が高いなどの予測理論を紹介し、加速度的な社会の変化の中で膨大な情報から自ら問いを立てて、その解決を目指し、他者と協議しながら新しい価値を生み出していくことができるよう、その必要な資質能力を身につけることが重要である。とのあいさつをいただいた。テーマについて柁木良和副会長と菊地広幸副会長から話されて、次のような懇談が行われた。

○PTA関係者 ●県教育委員会

ICTの利用について

- タブレットなどICTの導入が進めている所もあるようだが、メリット・デメリットは。
- 大潟村、北秋田市、八峰町でタブレット利用の研究授業を行っている。現在、そのメリット・デメリットをまとめている途中である。デジタル教科書は紙媒体の教科書同様文科省検定基準整備など考慮すると、非常に導入は難しいという見解がでている。本県は探求的な授業を進める上で、子どもらが意見を発表し、聞く、自分の意見を伝えるプロセスを大事にしている。
- タブレットが人を育てるのではなく、タブレットが教えるわけでもなくあくまで道具として授業を進めるのには有効だと考える。
- インターネットセーフティー養成講座の受講により、着実に理解が進んだ。保護者と先生方が足並みをそろえて取り組めるような態勢をお願いする。
- 地域サポーター養成講座はこれからも保護者や先生そして地域の大人にも参加してもらえる形ですすめていく。
- 横手市内各中学校の生徒代表の「横手Y8サミット」の宣言文「いじめ撲滅」にLINEのやり取りは、9時までにやめましょうなど自己啓発を行っている。



統廃合について

- 平成27年1月27日文科科学省から「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」が発行になったが、その影響は。
- 少子化の影響で小規模校化が進んでおり、集団の中で切磋琢磨しながら学んで社会性を高めることが難しくなっていることが発行理由である。
内容は、学校は地域のコミュニティの場であり、学校機能を重視する観点から学校統廃合という視点は、統合によって地域の活性化を選択する。地域の総力を挙げて工夫しながら小規模校のメリットの最大化とデメリットの克服していく大きくは二つの選択を掲げてある。
本県の適正規模は国と同じように小学校は12～18学級、中学校は6～12学級と考えているが、下回っていても統廃合をすすめるものではない。
通学条件では距離で4～5KMと国は例を示しているがスクールバス利用で概ね1時間以内というふうに手引きには書いてある。
- 私の卒業した保育園小学校中学校高校短大全てが統合移転等でなくなった。統合の今後の大きな課題は、距離、通学時間が大きな難関と思っている。
統廃合の大きな要因の少子化を打破る対策がありまた私たちも大いに協力するので、少子化対策よろしく願います。
- 学校に関わっている方々の知恵を絞って、特色ある校風を作り、アピールしたい。
- 「岩城子どもゆめプロジェクト」を立ち上げ、地元に残り、リーダーとなるような子ども育成を目指し、地域を巻きこんだ「夢を語り合う」場を自分たちが寄付金集めも行って実施する。
- 小中学生の地域の祭り参加、農業体験等で地域とのつながりの種を蒔くキャリア教育をすすめたい。

メモリアルページ

今年度をもってPTA活動の区切り(閉校)となる学校があります。

①創立年月日 ②児童・生徒数 ③PTA会長名 ④校歌



八峰町立水沢小学校



①明治7年4月25日 ②88名 ③塚本 一也

作詞 武田 圭五
作曲 柴田源太郎

朝風かおる母谷山の
平和の里に育ちつつ
力をあわせ 明るかに
はげむ 水沢小学生

輝く希望胸にして
我が師の教え守りつつ
心をみがき 身をきたえ
学ぶ 水沢小学生



北秋田市立鷹巣西小学校



①昭和46年4月1日 ②84名 ③明石 求

作詞 石岡 順吉
作曲 柴田源太郎

みどりの里に すんだ空
のぞみははるか 森吉の
高さをめざし すこやかに
学びの道を すすもうよ
すすもうみんな 西小学校

ゆたかな いな穂 わたる風
流れはつきぬ 米代の
広さときそい あたたかな
愛の手がたく つなごうよ
つなごうみんな 西小学校



八峰町立埴川小学校



①明治10年6月10日 ②48名 ③金平喜美仁

作詞 仙北谷圭司
作曲 柴田源太郎

雲はれわたる 高峰の
雄姿を仰ぎ 見るたびに
湧き出る強き その力
輝くわれらが 希望なり
ああ すこやかに おおらかに

うるわしきかな 谷川の
澄める流れは そのまに
学びの道を 進みゆく
われらが清き 心なり
ああ すこやかに なごやかに



秋田市立川添小学校



①明治7年8月 ②130名 ③田村 浩喜

作詞 中川 正男
作曲 小野崎晋三

長者の山の朝日かけ
空にひとひらあかね雲
きょうのひと日があけてゆく
望み輝く学校で
手に手をにぎり進もうよ
われわれ川添小学校

椿の台の真昼時
賑ける若草いきれ
夏のひと日をげみゆく
力みなぎる学校で
手に手をにぎり進もうよ
われわれ川添小学校



秋田市立種平小学校



①明治7年11月10日 ②16名 ③加藤 康

作詞 竹内瑛二郎
作曲 佐藤長太郎

朝明けの 水影きよくほとり
静かに雄物 流れ見られ
つらなる山に 育つわれら
やさしくつよく すこやかに
雨にも雪にも ないつつ
日本の栄え になれが母校

鳥海の そびえる姿
学びの道に 朝夕ながめ
稲田の風に 父母の
まごころ思い 励むわれら
ひとみもあかる はつらつと
ゆくての希望 語りつつ
のびゆく種平 われらが母校



秋田市立戸米川小学校



①明治8年3月6日 ②33名 ③大宮 直樹

作詞 竹内瑛二郎
作曲 小松平五郎

輝きわたる朝の日に
高くきれいな高尾山
学びの道にあおぎつつ
伸びゆく国の希望をになう
かたい心に育ちましよう

大空ふかくうつしゆく
広くゆたかな雄物川
学びの道に思いつつ
この故郷の栄えをきずく
強いからだをきたえましよう



秋田市立大正寺小学校



①明治7年12月16日 ②42名 ③真坂 大康

作詞 松戸 治
作曲 藤原辰五郎

雪の光も螢火も
昔ながらの新波なる
教えの庭の学び風
いや吹きめぐる朝夕に

雪の光も螢火も
昔ながらの新波なる
教えの庭の稚児ざくら
いや咲きほこれ朝夕に



男鹿市立船川南小学校



①昭和34年4月1日 ②43名 ③武田 泰明

作詞 竹内瑛二郎
作曲 大山会三郎

流れる雲も うつくしく
本山とおく 見守る
父母のまごころ 胸ふかく
学びの道を 歩むに
ひとみあかしく 伸びてゆく
風さわやかに におう丘
ああのぞみ新な 船川南

はてなす歌の 海原の
はげますおす とどろくところ
心すなおに たくましく
日本のあすを 進みゆく
みんなどよかに 映るこの丘
海はれやかに 渡る船川南
ああゆて輝く 船川南



由利本荘市立上川大内小学校



①明治7年12月25日 ②49名 ③東海林 弘

作詞 佐々木正美
作曲 小野崎晋三

芋川上の そり立つ丘に
仰ぐ学びや われらが母校
ゆたかに茂る 山々めぐり
田の面展けて あたりを囲む
自然に潤う われらが母校

平和の郷に 文化を築く
これぞ久遠の 母校の理想
児も師も親も 村人こそ
はげみ仰ぐ 理想の光
伝統美わし われらが母校



由利本荘市立下川大内小学校



①昭和55年4月1日 ②85名 ③加藤 隆和

作詞 鈴木 文雄
作曲 豊島 重孝

朝な夕なに 仰ぎみる
鳥海の山 雲晴れて
はぐしく友情 あたか
いそしみ学ぶ 友と
希望の光 さす
この高台に 我らあり

よく野うのおす 二すの
川脈あいて 新たな
力を創り たゆみなく
いそしみ励む 友々
真理の道を 拓きゆく
この高台に 我らあり



横手市立境町小学校



①明治44年5月2日 ②70名 ③桐原 晴美

作詞 佐々木重雄
作曲 山本 正夫

庭にそびゆる 老いちょう
やさしく強く すえ広く
けだかき心 みがきます
丈夫なからだ きたえます

遠き上より 流れ来し
無限の訓 われらに
明るい学校 築きます
よい子めざして 進みます

 横浜市立黒川小学校  ①明治7年5月30日 ②48名 ③佐藤 直也	作詞 平川 英一 作曲 佐藤長太郎 朝もや晴れて 鳥海はるしく 清く強く 栄えあれ 伸び高らかに 黒川の歌を 声高たすかにかわす みどりの風 野に みどりの花 澄みわたるに みどりの実 澄みわたるに みどりの実 澄みわたるに	 横浜市立金沢小学校  ①明治12年12月24日 ②63名 ③浦部 貴	作詞 小川正太郎 作曲 柿崎かくじ まどろみしるやなを みどりの春のうた あけぼのの光を あけぼのの光を ささなみはくくや川 輪はくくくわの波 大輪はくくわの波 大輪はくくわの波
 羽後町立田代小学校  ①平成16年4月1日 ②38名 ③佐藤 正	作詞 小坂 太郎 作曲 原田 愛 青い地球の 日本 輝く山なみよ みんないの 木になつて みんないの 木になつて 明日をひらく 東北 緑の海を 東北 高瀬の流を 東北 高瀬の流を 東北	 羽後町立仙道小学校  ①明治20年4月1日 ②30名 ③土田 律子	作詞 木沢長太郎 作曲 原 伸二 地井山から きれいな日ざし ならん顔が お花のようだ 今日の日を 明日のそみ 今日の日を 明日のそみ 高瀬の流を そよ風わたる はたの心は 小鳥のようだ 今日の日を 明日のそみ 今日の日を 明日のそみ
 羽後町立元西小学校  ①明治13年5月 ②39名 ③佐藤 雄	作詞 小坂 太郎 作曲 山下 毅雄 北国山脈のふもと 伸びる 若草のいのちが 伸びる 太陽の風と大地が 伸びる 太陽の風と大地が 伸びる 太平の山は 呼んでる あふる水の 呼んでる あふる水の 呼んでる あふる水の 呼んでる	 八峰町立八森中学校  ①昭和22年4月1日 ②95名 ③門脇 敬	作詞 五十嵐 謙 作曲 大山会三郎 波蹴る日本海 潮風に 心は海を 潮風に 心は海を 潮風に 心は海を 潮風に われみな結んでいかに われみな結んでいかに われみな結んでいかに われみな結んでいかに
 八峰町立峰浜中学校  ①昭和56年4月1日 ②83人 ③門脇 博人	作詞 芹田 拓也 作曲 柴田源太郎 高峰母谷が 澄む空を 仰ぎて 野を広く 露けき色も 山萩の 清き精神 育みて 年月めぐる 松風に 海原はるか 望みつつ 偉容を誇る 学びやに 正しき精神 つけぎて	 羽後町立羽後中学校  ①昭和47年4月1日 ②217名 ③小野 要	作詞 井上 靖 作曲 芥川也寸志 水ぬみ行く おもひの川 陽炎もゆる 雄勝野よ 自由な平和の 雄勝野よ 高らかに 雄勝野よ 山脈遠く 雲は湧き 風渡る 雄勝野よ 父の国 雄勝野よ 父の国 雄勝野よ
 羽後町立三輪中学校  ①昭和22年4月1日 ②91名 ③佐々木康寛	作詞 山田 千之 作曲 須田 昌平 光あふる 光あふる 光あふる 光あふる 光あふる 光あふる 光あふる 光あふる 力 力 力 力 力 力 力 力 力 力 力 力 力 力 力 力	 羽後町立高瀬中学校  ①平成4年4月3日 ②45名 ③阿部 榮司	作詞 大岡 信 作曲 一柳 信 あきらの川 波は あきらの川 波は あきらの川 波は あきらの川 波は 花咲き誇る 女木の 四季の 女木の 四季の 女木の 四季の 女木の

平成28年度 統廃合の状況		小学校	中学校	
	鷹巣西小	→ 鷹巣小へ	八峰中	→ 八峰中へ
	水沢小	→ 峰浜小へ	森中	→ 羽後中へ
	堀川小	→ 雄和小へ	羽中	
	川添小	→ 雄和小へ	三輪中	
	種平小	→ 雄和小へ	高瀬中	
戸米小	→ 船川第一小へ			
大正寺小	→ 船川第一小へ			
船川南小	→ 船川第一小へ			
		下川大内小	→ 大内小へ	
		上川大内小	→ 大内小へ	
		境町小	→ 横手北小へ	
		黒川小	→ 横手北小へ	
		金沢小	→ 高瀬小へ	
		田代小	→ 高瀬小へ	
		仙道小	→ 高瀬小へ	
		元西小	→ 西馬音内小へ	

郡市 PTA だより

■ かつの

● かつののPTA活動を考える会



かつのPTA連合会最大の事業である「かつののPTA活動を考える会」を、今年度は11月28日(土)に開催しました。

第1部は、県教育庁生涯学習課の森川勝栄

先生から、「大人が支える！インターネットセキュリティ」と題した講話をしていただきました。県内における、生徒のSNS利用における犯罪被害の現状や、それに対する親の携わりをお聞かせいただきました。

第2部は、JA全農あきた営農支援部営農支援課参与の泉牧子氏から、「食卓の向こう側～食べものの現場」との演題でご講演いただきました。日本の食は安全だと思っていましたが、そうではない衝撃的な実情を目の当たりにし、子どもたちにふるさとの食をつないでいく大切さを感じました。

地域と学校が連携した子育てを構築していくために、今後のPTA活動を考える良い機会となりました。

■ 大館北秋田

● 「家庭環境の大切さを学ぶ」

9月26日(土)、大館市立桂城小学校を会場に、今年度の「大館・北秋田PTA連合会研修会」が開催されました。会員や地域の住民を含め、約200名の参加をいただきました。

はじめに行われた全体会では、これまで地区Pや単Pの活動にご尽力された49名の会員に表彰状が贈られました。また、団体表彰として鷹巣西小学校PTAにも表彰状が贈られました。表彰者のご功労を参加者全員で讃えました。

後半は、青森刑務所篤志面接委員の伊藤恵美子氏から「すばらしい少年達との出会い」と題した講演をいただきました。少年院に入るに至った原因の多くは家庭にあることや、その中でも特に歪んだ親子関係が起因していることを、自らの体験を基にお話してくださいました。親の愛情、そして家庭環境の大切さを、心から感じたお話でした。



■ 能代山本

● つなげよう！子どもたちに明るい未来を！



今年度、PTA連合会では、日本ペップトーク普及協会の理事である副島理子氏を講師にお招きし、「子どもも大人もやる気が湧き出る励ま

しのことば～ペップトーク」と題して講演会を行いました。『今日の講演はとても感心する話ばかりで、時間のたつのも忘れました。親としてもっと早く出たい内容でした。これからはペップトークに心がけようと思います。副島氏の元気で前向きなトークに勇気づけられました。』というような感想を述べた参加者が多く、ワークショップによる参加型の活発な会となりました。また、講演会にあわせて、各単位PTA発行のPTA会報の展示会も開催しました。

本連合会の母親委員会では、「災害時の炊き出しと救急法」をテーマとした内容で講習会を行いました。災害に対する参加者の関心の深さが強く伝わってきた研修会でした。

■ 男鹿市

● 「笑いのある家庭、笑う力は生きる力」

今年度の研修会は、「笑いのある家庭～プラス思考で子育てを楽しもう～」をテーマに、日本笑い学会秋田県人会



長 人星亭喜楽駄朗氏を講師にお迎えして行いました。「笑う力は生きる力～逞しく心豊かな子どもに育てよう～」という演題で90分間講演をしていただきました。

忙しい現代社会の中で、子育てを楽しみながら心豊かな子どもを育てるために、どう関わり働きかけていけばよいか考えるよい機会となりました。約120名の参加者からは、「元気をたくさんもらえた講話でした。プラス思考って大切ですね。ユーモアをもちながら、笑顔で毎日生きたいものです。」「楽しい時間でした。笑う力=生きる力を生活に取り入れ子どもと仲良くしたいと思います。」等、多くの感想が寄せられ有意義な研修会になりました。

㊦ 潟上南秋

●健康づくり研修会「心も体もリフレッシュ！」

潟南P連では、毎年研修会を開催しております。今年度は、11月21日(土)、潟上市昭和公民館を会場に、スポーツインストラクターの西根千鶴先生を講師にお迎えし、心と体をリフレッシュする運動を体験しました。

子どもが毎日元気に過ごすためには、まず親が元気でなければなりません。今回は、ちょっとした時間に気軽にできる運動を紹介していただきました。身近なテニスボールを活用した体をほぐす運動、肩こりや腰痛を改善させる運動などを解説を交えながら楽しく紹介していただきました。日頃の運動不足を解消したり、ストレスを解消したりすることにも役立つ、楽しい研修会となりました。約100名の参加者は、健康であることの大切さ、体を動かすことの心地よさを実感したようでした。



今回の研修会は、心の体のリフレッシュはもちろんのこと、健康づくりへの意識を高めるよい機会になりました。

㊦ 秋田市

●PTA親睦野球大会・バレーボール大会

秋田市PTA連合会では、「小中学校PTA会員が野球・バレーを通して交流と親睦を深める機会」という趣旨から、秋田市PTA連合会保健体育部が中心となりPTA親睦野球大会・バレーボール大会を開催しております。今年度は野球大会を9月26日、27日に、バレーボール大会を11月1日に開催しました。野球大会は秋田市PTA連合会設立の昭和23年より開催され68回となりました。また、バレーボール大会は昭和38年に「秋田市PTA家庭婦人バレーボール大会」として始まり、今年度で52回目となり、どちらも長い歴史があります。

多忙な合間をぬって懸命に練習している選手の方々の試合には、目を見張るものがあります。凛々しいユニフォーム姿で白熱した試合を繰り広げる親の姿に、子どもたちも熱い声援を送っていました。

多くの情報が交錯する時代で、子どもたちを守るための知識の獲得に苦勞していますが、パツと(P)楽しく(T)集まって(A)、時には頭だけではなく、体を動かすことで増々活発なPTA活動ができるのではないのでしょうか。



㊦ 由利本荘市

●PTA活動の活性化に向けて



今年度12月に行った教育懇談会では、由利本荘市がコミュニティースクールの指定を受けたことから、「PTA活動の活性化をテーマ」に情報提供とグループ協議を行いました。

特色ある活動を行った2校の情報提供は、「児童数が減り単Pでの活動が難しくなった小中学校が地域の方々のサポートをいただきながら合同で駅伝大会を開催した取り組み」と「被災地復興を機会に交流が始まり、他地域の方々と関わる中で異なる文化を理解し取り入れながら進めてきた子育て交流会の取り組み」で、紹介後のグループ討議では、それぞれの単Pでの活動が紹介され、活発な情報交換会となりました。

また、市教育委員会各課の方々にも参加をいただき、学校やPTAへの具体的な支援や取り組みについて伺うことができ、市への要望書に対する回答が得られるなど成果の見える会になりました。

㊦ にかほ市

●講演会～笑って 笑って お元気に！

今年度のPTA連合会講演会は、児童向けではなくPTAと教職員向けのイベントとしました。開催日が平日の夕方からの開催でしたので、参加者が集まるか心配でしたが、幸い100名ほどの参加者が集まりました。



内容も趣向を変えて、桂三若さんの落語会にしました。三若さんは、あの有名な六代桂文枝師匠のお弟子さんです。三若さんは、秋田県から「秋田お笑い大使」の任命を受けており、様々な教育施設での落語会にも慣れており、会場は爆笑の渦に巻き込まれました。日本中の小学校でも落語をされているのですが、秋田県の小学生は、教育水準が高いためか、落語を聞く姿勢も礼儀正しく、理解度もすぐれているそうです。落語の前段を枕というそうですが、そこでは特に秋田の小学校と大阪の小学校との対比が印象的で面白いと思いました。皆さんが一緒に「楽しくて大笑いしました。参加してよかった！」と話してくれたので、開催してよかったと感じました。

大仙市

●共に創る 考え開く ～『語ろう！ かだろ！』



8月1日(土)に中仙ドンパルを会場に元香川県公立小・中学校長、竹下和男氏を講師にお招きして、「弁当の日がやつてきた」の「講演会」を開催しました。当日は300名余りの会員が参加して食について貴重なお話をいただきました。

11月21日(土)には、県立農業科学館さんで母親委員会の学習会「バターづくり」に挑戦しました。当日は母親委員28名、児童生徒37名が楽しくバターづくりに参加し出来上がったバターを食パンにつけて食べ楽しい一時を過ごしました。

11月30日(月)には、第20回研修会「視察研修」を西仙北小学校さんで開催し、西仙北地区の小中連携について学び合いました。

2月19日(金)には、第21回研修会「協議会」を行い①児童生徒の学力等の状況について②手洗い教室について③PTA活動における校種間連携について中学校区毎に情報交換を行い来年に向けて話し合うことが出来ました。

仙北市

●市P連研修会 「大人が支える！ インターネットセーフティー」



スマートフォンやタブレット等の普及によって、子どもたちを取り巻くインターネット環境が大きく変わり、様々なトラブルに巻き込まれる危険性が問題となっている。そこで、今年度は有害情報対策に関する研修会を開催することにした。

2月20日(土)、角館交流センターにおいて、県教育庁生涯学習課から2人の社会教育主事の先生をお招きし「大人が支える！インターネットセーフティー」と題した講話をいただいた。

講話では、県が進めている「インターネットセーフティー」や子どもたちを取り巻くネット環境、子どもたちに人気のサイトの特徴と問題点や注意すべきこと等についての話があり、参加者はうなずきながら耳を傾けていた。

参加者からは、「具体的な事例から問題点がよくわかった」「ネットの使い方について子どもと話し合おうと思った」「家庭のみならず学校や地域全体で取り組む必要があると思った」等の感想が寄せられ、有意義な研修会になった。

美郷町

●講演会「子育てを上手に楽しもう」



美郷町PTA連合会では、教育委員会との共催で講演会を開催しました。120名を超える参加者は、ユーモアを交えた秋山邦久先生の話しを楽しみながら学ぶことができました。

秋山先生の講演は、臨床心理士としての経験・実績の裏付けがあつての生きた話で、解決するための具体的な内容が、多くの方の心を動かししました。

『現代社会で求められる能力』として、「コミュニケーション能力」では、その内容や文脈を意識して伝えるだけで、理解度が大きく変わること、「家族を常にメンテナンスする」では、分かり合えているつもり…を排し、各々が、家族のために何が出来るか、行うか！を考え積極的にアプローチしていくことの必要性を訴えられておりました。参加者からは、「親子関係だけでなく、家族の問題全てに通じる話で勉強になった。」などの感想が寄せられました。

横手市

●好評だった横手大会



今年度は、第41回秋田県PTA研究大会横手大会を10月24日、25日の両日に渡ってたくさんの参加者を、お招きして行うことが出来ました。24日はセントラルホテルを会場に200名を超える参加者で情報交換会が開かれ、勇壮な大雄太鼓の演奏に始まり、市内の美酒美食が振る舞われる中存分にPTA活動に対するそれぞれの思いを熱く語り合いました。また、2日目の研究集会は400人を超える参加者を得て、ふるさと村を会場に横田晋務先生による「脳から見る生活習慣と学力との関係」と題した講演でスマホやラインの使い方と学力の関係などを明らかにしてもらいました。また、佐藤さゆ里先生による「心の基地づくり～大人から子どもへのプレゼント」と題した講演で自分を信じられる子どもの育て方を、教えていただき大変有意義な時間になりました。参加された方々の、アンケートからも好評の声を聞くことが出来運営者も満足のいく会となりました。

湯沢雄勝 ●災害から子どもたちを守り、自分たちの身を守るために…

今年度の郡P連研究集会は、羽後町P連研究集会とも兼ねて、9月5日(土)に羽後町の文化交流施設「美里音」において行われました。研究主題「感じる 気づく 行動するPTA ～育てよう 健やかな子どもを！～」のもと、仙台管区気象台の気象防災情報調整官である和田幸一郎氏を講師としてお招きし、講演会を実施しました。演題は「気象災害から子どもの身を守る」でした。

講演では、防災に役立つ天気図の見方、異常気象の背景、発達した積乱雲による気象災害と対応、スマートフォンを活用した気象情報の利活用、知っておきたい防災気象情報について、見やすいスライド等を使いながら具体的にわかりやすく話していただきました。「気象について詳しく知ることができ、日常であり得る話でとても勉強になりました。空を見て見分けられることも分かり、これから情報を見て素早く安全に過ごせるようにしたいと思います。」等の感想が多数寄せられ、260名ほどの参加者にとって、災害予防の重要性を改めて考えさせられた有意義な時間になりました。



文部科学省委託事業 ネットモラルキャラバン隊 研修会

12月13日(日) 秋田テルサ



多数の参加者が、坂元章(お茶の水女子大教授) による基調講演
などでスマホ利用におけるルール作りなどについて研修した。

61キャンペーン募金活動



平成28年3月4日(金)
秋田駅前ぼぼろーどにて。

安全互助事業から

平成28年度から賠償事故保険金額が80万円から1億円に変更になります。

そのほかの通院保険金、入院保険金、死亡保険金も見直します。(詳細は「加入の案内」)

賠償責任保険の変更は、児童生徒の事故に対する保護者管理義務の関係から高額賠償事故が全国・県内で発生していることから、子どもとその家族を高額賠償金からお守りする補償保険として、実施することといたしました。ご理解の上、ご加入申込みをよろしくお願いいたします。

●加入している保険の補償内容

児童・生徒:家庭内でのケガ、登下校中のケガ、自転車による事故、遊戯中窓や車を傷つけた等の補償etc.

PTA会員:PTA主催(共催)の行事でのケガ、

PTA行事活動中の管理者責任を負担することで生じる賠償金の補償etc.

●加入のお願い

平成28年度版「加入の案内」を3月中にお送りいたします。

安全互助事業の趣旨をご理解いただき、加入よろしくお願いいたします。

平成28年度事業から

第64回日本PTA全国研究大会 徳島うずしお大会

平成28年8月20日(土)～8月21日(日)

会場 徳島市鳴門市三好市他

第48回日本PTA 東北ブロック研究大会 弘前大会

平成28年9月10日(土)～9月11日(日)

会場 弘前市

第42回秋田県PTA研究大会 大館北秋田大会

平成28年10月22日(土)～10月23日(日)

多種多様なPTA活動の在り方を知る
貴重な情報交換の研修機会です。
皆さんで参加しましょう。



日新火災は、ひとりひとりのお客さまとしっかり向きあう「顔の見えるおつきあい」で、
お客さまのご期待にお応えしたいと考えています。

お客さまに最も身近で誠実な損保を目指して

秋田県PTA安全互助会補償制度取扱会社

日新火災海上保険株式会社

秋田サービス支店 〒010-0001 秋田市中通4-5-2-4F TEL.018-837-5255